

にぎわい

—日本海にぎわい・交流海道推進協議会通信—

シンポジウム開催報告

背後圏との交流「ザ・シンポジウムみなと in 旭川」



北海道の港と暮らしを考える「ザ・シンポジウムみなと」が平成9年10月20日、旭川市で開催されました。このシンポジウムは、北海道開発局、北海道、北海道経済連合会などで作る実行委員会が平成6年度から毎年開催しているものです。

今回のテーマは「海からとどく北の暮らし」で、港を通

じた物が私達の暮らしに深く関わっていることを広く道民に知ってもらい、港の重要性を認識してもらおうというものです。

パネルディスカッションでは、港湾関係者だけではなく港湾貨物を運ぶ物流関係者、港湾流通を使って商品を調達している商業関係者、それらを利用する暮らしの代表者という方々をパネリストに招き、みなととくらしの関わりの現況と将来の展望について話していただきました。

旭川での開催にも関わらず道内各地から440名の参加があり、内250名は旭川周辺の方ということで、内陸の方に港との関わりを知ってもらうという当初の目的を達成することができました。

交通基盤の弱い日本海軸において港湾は、にぎわい交流の拠点となる重要な基盤です。ただ港湾都市同士の交流に留まるのではなく、各港湾がその背後圏や隣接地域との結びつきを強めることで「魅力のある地域」の「窓口」としての役割を果たすことが重要と考えます。今回のシンポジウム開催報告はそうした取り組みの一例として報告させていただきました。(北海道開発局 港湾計画課 山中)

会員たより

一番北の「宗谷港」から

日本で一番北に位置する宗谷港。この港からは、海からの朝日、海へ沈む夕日を眺めることのできる日本海にぎわい・交流海道の始発駅と終着駅のロマンを体感できる珍しいポイントといえます。宗谷港を囲むように人口60



0人の集落が形成されており、日本海、オホーツク海とが接する資源豊かな海域に恵まれて、極めて安定した漁業経営が行われており、後継者が着実に育っている地区であります。そして、隣接して北海道北部の観光のスポットである宗谷岬があり、たくさんの観光客で賑わっております。

こうした地区の恵まれた資質を生かし、「ロマン漂う北の生き活き拠点」を基本コンセプトに、暮らしやすい、美しいまちをつくることに加え、宗谷岬と連携した交流の拠点づくりをめざして、若者が中心となってみなとまちづくりに取り組んでおります。当面の最大のテーマは、せっかく訪れた観光客や市民と交流を図りたい、良質の水産物を気軽に味わっていただきたい、そして、日本海にぎわい・交流海道に参加する各地の情報を展示したいと3年後に迫った漁業文化交流施設の整備であります。今年から視察研修を行うこととし、交流施設で大成功をなし遂げ、さらに中心市街地まで確実にまちづくり広がって、全国のウォーターフロントの模範となっている石川県七尾市に研修視察をお願いいたしました。公務ご多忙な折りにもかかわらず、七尾市の大変なご好意により「七尾マリンシティ」の背景等の学習やフィッシャーマンズワーフ「香島津」を見学させていただくことになり、2月16日例年になく雪深い稚内を3人の若者が元気に飛び出していきました。

北のゲートウェイ「稚内港」

平成になってから、稚内港へロシアからの水産物の輸入が目立ちはじめ、年を追ってその数を増し、昨年1年間の実績は何と4千隻を越え、上陸した

船員は7万人に達しております。街には日常的にロシア人がくりだし、買い物を楽しんでおります。

一方、サハリン北部の大陸棚には豊富な石油系資源があり、世界石油資本、ロシア企業、日本の官民合同出資会社等が参加し、今年から来年にかけて本格的な掘削が始まろうとしており、様々な動きが



石油開発探査船「ZEPHYR-1」パナマ船籍 2,833ト
利用施設：末広埠頭 -12.0m 岸壁

出てきております。稚内港には石油探査船やサプライボート等が出入りし、色々な国の技術者が稚内港を経由し、世界へ飛び立ち、また世界から集まってサハリンとの間を行き来しており、昨年は試掘段階ではあるものの、実績では373人を中継しております。今年から来年にかけて二つのプロジェクトが相次いで本格掘削を始めるため、さらに技術者の中継が増加することが予想されております。

また、サハリン州コルサコフ港との間に、平成6年から50年ぶりに就航した定期フェリーは、平成11年からロシア船に代わって稚内港を船籍としているフェリーが就航することになっており、いま、就航に向けた準備に追われております。

10年程前までは、北はソビエトであり、限られた交流しかできないでいましたが、今ではその大きな壁が取り払われ、交流が加速されていて北のゲートウェイの役割を担っております。
(稚内市 港湾課 柏谷)

お知らせ

郵便番号について

平成10年2月2日より郵便番号が五桁から七桁に変わりました。そこで、今後、会員皆様方に資料などを郵送することも有ると思われまますので、お手数を掛けますが会員皆様方の郵便番号を、第一港湾建設局 企画課 中西までFAXなどで報告をお願いいたします。

なお、当課のFAXの番号は、025-230-3680です。

(第一港湾建設局 企画課 中西)

編集後記

今回の「にぎわい」を発行するにあたって、北海道管内の会員の皆様には、「交流の前提として各地域の現況を知ることも大事なので、特に優れた活動や交流に限った報告と肩肘張らず、地域の近況報告のようなものでも構わないのでどんどん情報発信をして欲しい」旨で寄稿のお願いを致しました。その代わりと言っては語弊がありますが、半年に1回の発行担当の号に限らず情報を発信していこうと、今後は記事がある都度北海道開発局の方に原稿を送って頂くようお願いしております。他管内が発行担当の号についても極力寄稿できればと考えておりますし、当局で発行する時には記事を頂ければと思っております。

なお、これらの記事については「会員たより」というタイトルのコーナーにしましたが今一つセンスがないので、今後発行を担当される局で改名して頂いても結構です。

(第3号 編集長 笹島隆彦)

編集

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

北海道開発局 港湾計画課内 TEL 011-709-2137
FAX 011-709-2147